

平成 30 年度宇部市公共交通協議会第 1 回会議録

日 時 : 平成 30 年 (2018 年) 5 月 29 日 (火) 14:00~15:30

場 所 : 宇部市役所 4 階 第 2・3・4 委員会室

出席者 : 16 名 (欠席者 4 名)

榊原会長、木下副会長、福本委員 (代理出席)、綿部委員、辻野委員 (代理出席)、
河内委員、真辺委員、秋本委員、吉川委員、藤岡委員、徳光委員、久保委員、
吉原委員、木原委員、杉原委員、安平委員 (代理出席)

事務局 : 4 名

コンパクトシティ・共生型包括ケア推進グループ

中村グループリーダー、大木サブリーダー、中祖チーフ、伊藤主任

関係者 : 3 名

東岐波校区地域内交通運営協議会 1 名、

東岐波市民センター地域・保健福祉支援チーム 2 名

次 第 : 1 委員の紹介

2 議事

(1) 平成 29 年度収支決算及び監査報告について

(2) 宇部市地域公共交通網形成計画の目標に対する達成度の評価と課題

(3) 平成 30 年度予算 (案) について

【道路運送法関係】

(4) 東岐波校区コミュニティタクシーの実証運行について

(東岐波校区コミュニティタクシー運営協議会)

(5) 吉部・万倉地区デマンドバスの回数券について (船木鉄道株)

3 その他

1 委員の紹介

事務局から委員の紹介を行った。

2 議事

(1) 平成 29 年度収支決算及び監査報告について 【承認】

事務局及び監査委員から、平成 29 年度収支決算及び監査報告を行い承認された。

(質問、意見なし)

(2) 宇部市地域公共交通網形成計画の目標に対する達成度の評価と課題 【承認】

事務局から、宇部市地域公共交通網形成計画の目標に対する達成度の評価と課題について説明を行った。質疑については、以下のとおり。

【会長】

「①鉄道の利用者数 (JR 宇部線)」は、JR 宇部線全体の利用者数ですか、それとも宇部

市内の JR 宇部線の利用者数ですか。

【事務局】

宇部駅と新山口駅を除いた JR 宇部線各駅の利用者数の合計です。

【会長】

「②路線バスの利用者数（宇部市交通局）」は、先ほど宇部市交通局に確認したところ、年 1 回の乗降調査からではなく、平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月までの運賃収入からの推計から算出しているとのことでした。

【委員】

「③地域内交通の利用者数」と「④新たに導入する地域内交通の目標値」の利用者数は、内容が異なるのでしょうか。

【事務局】

「④新たに導入する地域内交通の目標値」の利用者数は、計画策定後に導入した市街地のコミュニティタクシーのみになります。「③地域内交通の利用者数」は、「④新たに導入する地域内交通の目標値」の利用者数に、計画策定前に導入している北部中山間地域のデマンドタクシーなどの利用者を加えています。

【会長】

鉄道とバス以外の小回りの利く色々な移動手段を総称して地域内交通としています。

【会長】

「①鉄道の利用者数（JR 宇部線）」は、2 年続けて増加していますが、原因などを分析していますか。

【委員】

JR 宇部線の利用者ですが、他の地方路線と同様に定期の利用が大半を占めています。定期の利用は平成 20 年度と比べ約 4%増えています、定期外の利用は約 16%減っています。少子高齢化により生徒数は減っていますが、高校の統廃合により、遠距離通学が増えていることが原因ではないかと思っています。

【会長】

バス関係の達成度が厳しくなっており、バス路線の再編の影響もあると思いますがそれだけではないかもしれませんので、この路線が減っているやこういった利用が減っているなど把握されていますか。

【委員】

バス路線再編による減便で、走行距離が年間約 20 万 km 減少しました。これまで年間約 3%ずつ利用者が減っており、バス路線再編による大幅な減便にも関わらず約 5%の減少に留まりました。元々利用が少ない路線を見直した効果だと思います。利用者の属性では、高齢者の利用が大きく減っています。

【会長】

減便のためやむを得ないところはありますが、大きな減少幅ですので考えていく必要があると思います。年 1 回の乗降調査による分析もお願いしたいと考えています。例えば、運賃

収入は減っているが低額の利用者が増えているのであれば、経営からすると厳しいかもしれませんが、公共交通としては機能していると言えると思います。

【委員】

この資料だけでは、原因や傾向が掴みにくく、例えばこの駅は利用が増えていて、あの駅は利用が減っているなどが分からないと対策が難しいのではないかと思います。

【事務局】

今後はもう少し詳しいデータ分析をしてお示ししたうえで、皆様の御意見を伺いたいと思います。

【会長】

バスは乗降調査で詳細なデータがありますので、再編しているので単純な比較は難しいかもしれませんが分析をお願いします。

鉄道は、駅別の乗降者数があると思いますので、先ほどの話しに基づくと、高校の最寄駅の利用者数が増えているなどの傾向が見えてくるのではないのでしょうか。

(3) 平成 30 年度予算 (案) について 【承認】

事務局から、平成 30 年度予算 (案) について説明を行い承認された。質疑については、以下のとおり。

【会長】

モビリティ・マネジメント業務ですが、もう少し具体的な説明をお願いします。

【事務局】

昨年から宇部市地域公共交通網計画を実現していくために、こういったモビリティ・マネジメントを実施していくべきかを検討してきました。計画の実施施策の中に、主要幹線のブランディングがあり、モビリティ・マネジメントを活用して実現できないか考えています。例えば、主要幹線を PR して親しんでもらえるように、ネーミングやキャッチコピーを付けてはどうでしょうか。車両や道路のカラーリングまでできればいいのですが、予算も限られておりますので、どこまでできるのか分かりませんが検討を進めています。

【会長】

昨年のバス路線再編で、減便などありますが、一方、主要幹線で等間隔運行が実現しています。計画の目標を達成していくためにも、良くなった部分については、もっと知ってもらう必要があると思いますので、予算計上されているのだと考えています。

【委員】

主要幹線では、時間帯によっては遅れが生じていますが、宇部市交通局では 5 月 1 日からバスロケーションシステムを導入し、遅れ時間を確認できるようになり、利用者の安心感は増したと思います。遅れないようにするために道路のカラーリング、信号や交差点の改良、また待合環境の改善についても一緒に取り組んでいきたいと考えています。

【会長】

モビリティ・マネジメントのようなソフト事業と合わせてハード整備も必要だと思います

ので、検討を進めていただきたいと思います。

【道路運送法関係】

(4) 東岐波校区コミュニティタクシーの実証運行について 【承認】

東岐波校区地域内交通運営協議会から、東岐波校区における7月からの地域内交通の実証運行について説明を行い承認された。質疑については、以下のとおり。

【会長】

火曜と金曜の週2日の運行には理由がありますか。

【運営協議会】

運営協議会で週3日運行してはどうかという意見もありましたが、これまで公共交通の無かった地域ですので無理をせず週2日とし、アンケート結果で希望の多い火曜と金曜に決めました。

【会長】

計画で収支率20%以上という目標がありますので、運行日や便数を絞り込んで運行経費を効率化することは良いことだと思います。

他地域では買い物の利用が多く、スーパーの特売日に合わせて運行していますので、今後の参考にしていただきたいと思います。

【運営協議会】

アンケートでそういった意見もありましたので、今後の利用状況や利用者の声を踏まえて対応していきたいと思います。

【委員】

高齢者の移動手段の確保が導入目的と思いますが、現在、高齢者はどのように移動されているのでしょうか。

【運営協議会】

無理して自分で運転しているので導入されれば免許を返納したいという方もいらっしゃいます。土日は家族の送迎で対応しています。

【委員】

現在、高齢者の交通事故が多発し、社会問題になっています。中国地方の様々な地域でも、代替の移動手段がなく、ギリギリまで免許を返納しない方が多くいらっしゃいます。高齢者の事故防止の成功事例となるようにしっかり利用促進に取り組んでいただきたいと思います。

【会長】

他地域でもうまくいっているところとないところがあり、やってみないと分かりませんが、自治会などを通じて東岐波に合ったやり方で進めていただきたいと思います。

(5) 吉部・万倉地区デマンドバスの回数券について 【承認】

船木鉄道から、吉部・万倉地区デマンドバスの100円回数券について説明を行い承認された。

(質問、意見なし)

3 その他

【事務局】

次回の会議ですが、宇部市地域公共交通再編実施計画の変更に伴い、6月27日(水)10時にお集まりいただきたいと考えております。詳細が決まりましたら文書で御案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

楠こもればの郷の自動運転の机上検討と、この協議会の関係はどうなっていますか。また、進捗状況はどうなっていますか。

【事務局】

昨年、国土交通省から楠こもればの郷での自動運転について認定を受けました。現在、この協議会とは別に立ち上げた宇部市交通創造コンソーシアムで、中国地方整備局をはじめ関係者と継続して実証実験までできるかどうかの検討を進めているところです。

【会長】

交通事業者の運転手不足は深刻で、2種免許を持たない運転手による自家用有償旅客運送の可能性の1つとして自動運転があります。ただ、自動運転は技術的な壁も高く、実現にはまだ時間がかかると思います。